

観光ガイドに挑戦しました！

おみごと！



子ども観光ガイド育成塾(5日目)11月14日(日) ~城東地区編~

いよいよ観光ガイド本番、子どもたちは、家族や友だちの前で緊張しながらも、堂々と案内することができました！当日、子どもたちの見事な案内を見て「素晴らしい！」「よく調べていて感心しました！」などの声がたくさん寄せられました。



旧梶村邸は江戸時代に「札元」今の銀行のような仕事をしていました。城東地区では大きなお屋敷です。

「箕作阮甫」これは、何だと思えますか。クイズを交えながら楽しく津山の洋学者達を案内しました。



作州鎌を知っていますか。城東地区の端、安岡町で農具を作っていた鍛冶屋です。端にあった理由は、火事を防ぐためと城下町の外に住んでいた農民にも買いやすいようにしていたためです。

津山洋学資料館で、紹介したい偉人は、宇田川榕菴と箕作阮甫です。榕菴がシーボルトからもらった顕微鏡の複製が当館にあります。精度的には現在の物とほとんど変わりません。



町家の広さは、間口によって違いますが、奥行きは昔の単位で17間で約30m。他の家も奥行きの長さが同じだということが特徴です。箕作阮甫旧宅は、工夫がいっぱいです。



津山の洋学者の箕作阮甫、宇田家三代について、それぞれの銅像を指さしながら紹介しました。細胞、酸素、水素など現在使われている科学用語を作りました。



大曲がりかゆるくかぎに形に曲がっている理由を知っていますか？一般的には敵の勢いを抑えるためといいますが、ここは、そうではないと思われれます。

城東地区には洋学資料館があります。それは、箕作阮甫が生まれた町だからです。箕作阮甫は、西洋文化の導入に貢献しました。その訳述書は広範囲です。



観光ガイドに認定！



洋学資料館には、本物の解体新書があります。ここには、たくさんの「五角形」があるのを知っていますか。

